



# まるの福連携

## 福祉分野からみた異業種との対話

一般社団法人福祉システム北海道代表理事

□連載□ 高橋 銀司氏

### エピソード4(終)

### 美容師 吉本 友美氏

最終回は美容師の吉本友美先生です。

#### ●美容師になった経緯を教えてください

実家が美容室で、美容師がとても身近な存在でした。実家では祖父母と一緒に住んでいて、小さいころから自然と祖母の髪をとかしたりしていましたね。学生時代は美容師になる気が全くなくて、商業高校に入って簿記などを勉強していたのですが、高校3年生で就職先を選んでいいるときにイメージに合う会社がなく迷ってしまいました。そんなときに自分自身を見つめ直して、人の髪を触るのが好きだったり、美容が好きだったことに気づいて、そこから美容師を目指しました。

#### ●美容師といっても幅広いですよね。ネイルとか、サロンとか

そうですね、「トータルビューティーサロン」のようなイメージですね。ベルエポックではエステもメイクもやっています。

#### ●仕事のやりがいなどを聞かせてください

仕事を通じて、お客さんに「ありがとう」と言われたり、「必要とされる」のはうれしいですね。「私を必要としてくれる」というのがやりがいにつながっていると思います。今は専門学校生への教育に移り、現場から離れていますが、美容師としての仕事を振り返ると、業務に追われ大変だった記憶とともに、それを上回るお客様からの「ありがとう」を思い出します。美容師は、その人の日常もそうですが、人生の節目や特別な日にも必要とされます。例えば、「娘の結婚式に出るので髪をセットしてほしい」「デート前日なのでヘアスタイルを整えたい」とか、その人の人生の特別な瞬間に向けて、本人と一緒に準備して関わって、なかなかある仕事ではないですね。あとは、髪を切る仕事はAIではできない。今は車も自動運転の時代です。そんな中でも、頭の形や髪の長さ、毛量などバランスを見てカットするのは、AIではほぼできないそうです。今後も技術職として残る仕事だと思っています。

#### ●美容師教育に携わっていかがでしょうか

ベルエポックで教務を始めて約9年、担任を持って5年目になります。20歳くらいの年頃の生徒を抱えている学校なので、いろいろな相談に来る子が結構います。困っているとき、手を差し伸べられる一番身近な存在です。そうありたいとも思っています。私自身、専門学校時代にはもともと美容師になりたくて入ったわけではないので、本当につらくて辞めた先がずっと寄り添って相談に乗ってくれたおかげで、2年間の学生生活を終え、美容師になれました。同じように生徒がつらいとき、そばで支える存在になりたいなと思っています。

今は100人の子供(学生)がいると思って仕事をしています。地方出身の生徒がとても多く、何かあったときに親御さんに頼れない子もいます。面談は多いときは毎日2、3人くらいのペースで行っていますね。中には卒業生も「先生ちょっと相談あるんですけど」って学校に来てくれることもあり、とてもうれしいです。卒業してからも学校に気軽に立ち寄れる環境作りも大切ですね。卒業生が有名な雑誌に載っていたのを見たときには、とても感動しました。本当に親のような気持ちになりますし、活躍している姿をみるのがうれしくもあり、やりがいにもつながりますね。

#### ●美容師の難しさってどんな部分でしょうか

会話やコミュニケーションが取りづらいお客様のオーダーは凄(すご)く大変な部分もあります。例えば、座ったまま無言の方もいらっしゃる。ニーズを聞き出すのが難しく、希望の髪形、どのくらいの長さにしたいのかが分からなかったりします。ですが、その方がまた翌月に来てくれると、うれしさが倍になります。「良かった、対応が合っていたんだ」ってホッとします。もちろん来ない方もいらっしゃいます。「私のイメー



**よしもと・ともみ** 1981年、石狩市出身。札幌ビューティーメイク専門学校で美容師免許を取得。卒業後、札幌市内大手美容室に就職し着付け、まつ毛エクステを学びアイリストも兼務。2011年、札幌ベルエポック美容専門学校に専任教員として入職、現在は美容師科で美容師国家試験対策などを受け持っている。

ジとお客様のニーズが違ったんだな」というのが数カ月後に出ます。「難しいな」というのはすごく感じますね。それと美容業界も上下関係が厳しいのですが、そこでコミュニケーションを学んでいくのが大切です。それはどこでも潰(つぶ)しのきくことだなと思います。技術は練習を繰り返して体に覚えさせるしかなく、新しい技術も毎年増えていくので、日々練習と勉強の繰り返しですね。

#### ●美容師として、福祉への印象を聞かせてください

「美容×福祉」というのは切っても切れないものですね。今後、絶対に連携が大事になってきますし、もっともっと強めていかなきゃいけないコラボレーションだと思っています。福祉に関する美容ってちょっと距離をとりがちに感じますね。その分野に取り組みたいという美容師もそんなに多くなかったりします。でも私はもっと絆(きずな)や連携を深めていきたい分野と考えています。私は小さいころに祖父母と住んでいたのですが、今の生徒たち世代は高齢者に関わりを持った経験のない子も多く、抵抗感のある子も増えていきますね。そうした課題にも、美容と福祉をうまくコラボレーションさせて、何かができないのかなというのを数年すごく考えています。まだ具体的な固まっていますね。

#### ●連携できればおもしろいですよね。どういった関わりがあるのでしょうか

もちろん介護の方々も美容を学んで実践するのも1つですけど、多分それでは追いつかないと思うんです。「若い子と美容を介護の世界につなげたい」という思いがあって、私たちが教えている生徒たちを、そちら側に送り込めないかなあといういろいろ考えています。施設で暮らしている方たちは、なかなか外部との交流機会も少ないのではと思うのですが、もっと外部の方たちと触れ合ったりすることで、心の中に持っている「きれいになりたい」「楽しい」という気持ちを盛り上げて、笑顔にするというのをやっていけたらいいなと考えています。お互いに相乗効果で高めていけたらいいのかなと。

#### ●美容業界の生徒さんたちが来て、髪を洗ってもらうだけでも気持ちがリフレッシュされると思います

ちょっとヘッドスパをしてあげたり、頭のマッサージしてあげたり、ブラッシングしてあげるだけでも違うと思います。私は「その人の記憶に残るものを増やしていきたい」と思っています。というのも、私の実家は美容室とまつ毛エクステサロンが併設しているのですが、休日には私も少し母を手伝っています。美容室は高齢のお客様も多くて、80代でも歩ける方は来られています。まつ毛エクステに月1回来られる最高齢の方は何歳だと思いますか。なんと73歳なんです。その方はデイサービスに通いながら、合間で美容室に来てくれていて、「私いつまでエクステつけていれるかしらね」とって来るたびに言うんですよ。そういう声を聞くと、女性の心の中にある「きれい

でいたい」という思いを手助けできるのが楽しみです。デイに行くと、「またきれいになったわね」「まつ毛ぱっちりしてかわいいね」と言われるのがうれしいんですけど。そういう部分に関わられて私はうれしいと感じるので、若い子はもっと感受性が豊かなので、生徒にも伝えられたらなと思います。

#### ●介護の場面でも洗髪はあるのですが、気持ちよくシャンプーする方法や相手に負担をかけないコツなどありますか。美容師として、どこに着目されているのか気になります

専門的な話になりますが、注目しているのは「頭皮の固さ」です。まずは触っちゃいますね、頭皮を。人間は頭のてっぺんから足の先まで1枚の皮でつながっていますよね。頭皮は自分の健康のバロメーターなんです。頭皮を触って、「ちょっと固かったりすると、「なんか疲れたりしますか」と聞きますし、油分が多かったり、逆に乾燥してフケが多かったりするとシャンプーを変えてあげたりします。お客様に使っているシャンプーは皆さん同じではないんですよ。その人の髪を見て、タオルをしている間に頭皮を触ったりして頭皮の乾燥具合を瞬時に見ています。あとは、ヘッドスパが今すごく流行っていて、専門店ができたりしていますよね。ここ3、4年で多分すごい増えたと思うんですけど、ちょっと疲れたなと思ったら、月1回ヘッドスパに行ってください。全然違いますから。頭皮をケアしてあげるだけで表情も若返ったりして変わりますよ。



注目するポイントや気持ちの良いシャンプー方法を解説する吉本氏

#### ●整体に行く感覚と同じように、ヘッドスパにも行ってもらいたいということですね

そうですね。ぜひ今後はヘッドスパも入れてください。ツボ押しとかもあるんですけど、いつもよりちょっと長く地肌を触ってあげるだけで血行が良くなって、疲れづらくなったり体の調子が良くなったりします。なので、自分の心と体のため。ヘッドスパって気持ちいいじゃないですか。あんな至福の時間ないですよ。

### ■あしがき

いくつになっても「カッコ良くありたい」「きれいでありたい」という思いに寄り添う美容師の吉本先生。美容と福祉の連携を深めていきたい熱い思いに私も共感しました。ヘアスタイルやネイルなど外見を整えて気持ちが前向きになると、やりたいことや行きたいところはきっと増えますよね。そうした気持ちの変化は身体面にも良い影響を与え、心身共に充実すると私は思っています。

実は、吉本先生は当法人が2019年に実施した「介護職員向けシャンプー講座」の講師も引き受けてくださり、受講者(介護職)に惜しみなくシャンプー技術を教えていただきました。私が講座の企画を提案したとき、むしろ吉本先生の方から「ぜひやりましょう!」と積極的に受け入れてくれました。異分野の私たちにも丁寧に技術や理論を教えていただいたのは、自分の担当のお客さんだけでなく、教育を通して「一人でも多くの方がシャンプーで気持ち良くなってもらいたい」という熱い思いがあるからではないでしょうか。(おわり)

※対話は感染対策を徹底した上で行っていきます。

▶一般社団法人福祉システム北海道◀  
ホームページ <http://fukushi-sh.net/>  
問い合わせ先 [info@fukushi-sh.net](mailto:info@fukushi-sh.net)